

腐食センターニュース

*****平成 6 年 9 月 1 日

腐食センター1年を顧みて

腐食センター長 岡田秀弥

当腐食センターは平成 4 年 11 月 30 日の設立記念講演を皮切りに、平成 5 年 1 月からスタートしたが、実質的活動に入ったのは昨年(平成 5 年)の 6 月頃で、現在ではほぼ 1 年の活動が終ったと言える。

(株)ナカポーテック、日本防蝕(株)の御協力により、週 2 回協会内に相談員を派遣して戴き、外部からの相談に預って戴いている。当初どの程度の相談があるのかと心配しておりましたが、少しずつではあるが增加して参り、最近では月に 5,6 件程度になって参りました。これも皆様方の厚い御支援によるものと深く感謝している次第です。

この約 1 年間における相談件数は 48 件で、このうち 23 件は有料(10 万円以上;6 件、10 万円以下;17 件)、25 件は無料であった。内容は下表の通りである

相談内容	件数
ステンレス鋼の腐食	5
銅合金の冷却水中での腐食	5
亜鉛、錫、アルミめっきによる防食対策	4
腐食の評価判定に関するもの	4
試験法に関するもの	3
鋼材のさびとり、防錆対策	3
給水配管の赤さび防止	3
その他の腐食(応力腐食、エロージョン、異種金属接触腐食、水素脆化、等)	10
文献調査依頼	6
資料送付	4

この他鋼材クラブ(社)と共同で"社会資本の腐食"に関するセミナーを本年 3 月に開催した。

相談内容は簡単なものから複雑、高度なものまで千差万別で、相談員、中立技術顧問団を含めその苦勞も並々ならぬものがあったが、次第にその対応にも馴れ、現在ではスムーズに推移している。相談内容を設備面から分類すると、多い順に機械、建築、土木、電気の順になる。

当初は不馴れなためか無料にして承った場合も多々あったが、最近は徐々に相談料を戴けるようになってきている。日本では腐食相談等には対価を支払う習慣がないので、これから徐々に習慣化して行かねばならないであろう。高度なかつ中立的立場からの判断が必要な相談については小委員会をそのつど組織し、専門家の慎重な討論を経て報告書にまとめている。これらは当腐食センターの本来的な任務であろうと認識している。佐藤前会長の時に外部からの協会

腐食センターニュース No. 004 (1994年9月1日) (社)腐食防食協会

への依頼研究はすべてセンターを通して行なうという御決定があったので、大口受託研究では諸大学の先生方による分担研究によりこれに込えている。このような形での先導的研究がさらに拡大できれば、わが国のこの分野の発展に大いに寄与しようと考えている。

またセンターはこれら以外に腐食センターニュース(A4、約4頁)を3ヶ月毎に発行し、本号で第4号に達した。内容としては一般的なトピックを中心に編集したもので、皆様方の何らかの参考になるものと考えて今後も継続していく方針です。未だセンターの存在を積極的にPR活動しておりませんが、少しずつ上げる手始めとして下記のようにこの11月に神奈川県で無料相談会を開催する予定であります。よろしく御参加の程を。

運営委員会はほぼ月1回開催されていますが、ここでは現在の問題と同時に将来の構想について活発に意思の交換が行なわれている。将来の構想特にその財政的基盤については確たるものはないが、相談内容の増加と内容の充実と相まってもう少し現在の状況を継続させて戴き、将来を考えたいと思っている。